

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3
地域生活交通の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通対策課長 小笠原 唯真 電話番号 0852-22-5898

事務事業の名称	一畑電車運行維持事業	
目的	(1) 対象	一畑電車を利用する県民等
	(2) 意図	生活交通機関として、一畑電車の安全運行の維持を図る
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 安全かつ円滑な運行を維持するために、一畑電車に対して、一畑電車沿線地域対策協議会を通じて基盤設備（線路・電路・車両）の維持・修繕・更新費や安全輸送設備等の整備費を助成する。 沿線地域の人口が減少していく中で利用者数を維持するため、一畑電車沿線地域対策協議会に対して事業費を負担する。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	一畑電車の年間利用客数	目標値		140.0	140.0	140.0	140.0	万人
	式・定義	一畑電車の運行維持に必要な利用客数	実績値	139.7	139.0	143.8			
			達成率	-	99.3	102.8	-	-	
2	指標名		目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	339,277 (計画値)	223,076
うち一般財源 (千円)	339,277 (計画値)	223,076

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年4月に策定した一畑電車沿線地域公共交通網形成計画（以下「網形成計画」という。）に基づき、一畑電車沿線の公共交通利用者数の維持を図るための各種施策を実施している。
また、平成28年4月に策定した一畑電車支援計画（H28～H32）に基づき、一畑電車の安全性及び利便性の向上を図り、老朽化した施設の整備及び更新を実施している。

○利用者の推移（H23～H29）
H23 1,368千人 H24 1,389千人 H25 1,612千人 H26 1,425千人 H27 1,397千人 H28 1,390千人 H29 1,438千人

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・老朽化していた施設の整備及び更新、特に、平成28年度に引き続き導入した新型車両により、これまで以上に安全性と利便性が向上した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・ここ10年の利用者数は、出雲大社でイベントのあった平成25年度の大幅増を除き、おおむね140万人前後で推移している。
 - ・老朽化した施設等が多くあり、安全性確保のため修繕や更新が必要である。
 - ・さらなる運行の安全性、快適性確保のためには、現在、多くの車両で主流となっている制動機の制御装置（回生失効防止装置）を設置することが望ましいが、まだ整備されていない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・通勤定期券助成やイベント支援等の利用促進事業により、定期券及び観光等での利用客を確保している。
 - ・緊急性があるものや車両更新に優先的に取り組んできたが、線路や電路は老朽化が進んでいるものが多くある。
 - ・車両の更新により、制動機が発電ブレーキから現在主流の回生ブレーキに代わってきたことに伴い、新たに制御装置（回生失効防止装置）が必要となった。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・引き続き、自動車を運転できない高齢者や観光客等の利用促進を図り、利用者数を維持していく必要がある。
 - ・支援計画に基づき、老朽化した施設等の修繕や更新の必要がある。
 - ・平成30年度に制御装置（回生失効防止装置）を設置予定である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・関係機関と協力しながら、一畑電車の利用促進事業など網形成計画に基づき各事業を積極的に進めていく。
・支援計画に基づき、一畑電車の安全性及び利便性の向上を図り、老朽化した施設の整備及び更新を実施していく。